

朝日 3.4.-9

### 客室乗務員35人 江戸川区に出向

JAL

江戸川区で4月から、日本航空の客室乗務員35人が非常勤職員として働き始め

た。コロナ禍で航空業界の経営が厳しさを増す中、社員の出向を進めている日本航空と、接客の実務経験が豊富な人材を求めていた同区の恩恵が一致した。

日本航空に在籍したままの出向で、任用期間は半年から1年。同区での勤務は週4日程度で、他の勤務日はフライト業務などを続ける。全員女性で、30人はマイナンバーカードの普及業務に、5人はSDGsや共生社会実現などの課題に取り組み企画・運営部門に就いた。

マイナンバーカードでのポイント還元制度が始まり、カードの申請件数が増加している。区民との接触機会が増える中、同区では「職員が客室乗務員と一緒に働くことで、区民サービスのさらなる向上につながる」と期待を寄せている。

東京 3.4.-9

# 「障害に理解と優しさを」

## DVD制作 啓発用 区内小学校に

### 江戸川の通所施設

江戸川区立の知的障害者通所施設「さくらの家」(小松川三)は、小学生向けの啓発DVD「障害ってなんだろう」を作った。コロナ禍で講演会など啓発活動ができないため、職員が企画した。区立

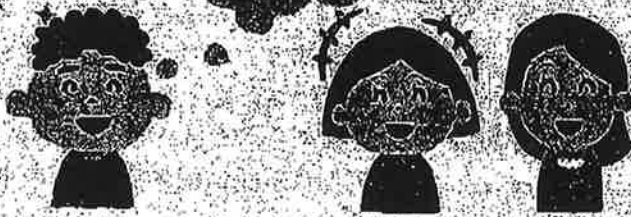
小学校六十九校に配布、授業などに活用される。

「さくらの家は、知的障害者の日常生活や作業、社会的活動の支援をしている。差別や偏見をなくす意図のDVDは、家庭でも障害について話し合っきっかけにしてほしいと小学生向けにした。DVDは約二十五分。この中で、興味関心があることが目に入らないといった自閉症の特徴を例に挙げ、正面から名前を呼んで周りの状況を伝えてあげてほしいと訴える。表情やジェスチャーなど言葉以外のコミュニケーションも使い、障害者が理解できる方法を選んで接してほしいとも呼びかける。

通所者の日常の様子を紹介や保護者のインタビューもある。「小さい時から障害者と関わって」「平等な世界は、誰もが顔見知りの町、コミュニティがつくれること」などと保護者は語っている。

「さくらの家の中村和人施設長は「多くの子どもたちに見てもらい、障害について理解を深め、街で会ったら優しい気持ちで接してみてほしい」と話している。

なんでなんでなんで...  
なんで、たたくの?



障害者のことを説明した場面「江戸川区提供」

(井上幸一)